

Next

発行所 (社) 茨城県建設業協会・建設未来協議会
〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22

電話 029 (221) 5126 (代)

ホームページ <http://www.miraikyo.com>

発行人 大 貫 茂 男

編 集 日本工業経済新聞社水戸支局

平成24年度基本方針

建設未来協議会 会長 大 貫 茂 男

「日本に激震、世界も揺れた」 昨年を振り返るとそんな感じの一年でした。

国際的には、北朝鮮の金正日総書記が急死し世界に波紋を投げかけ、欧州では財政危機が拡大し政権交代が相次ぎました。中東に民主化要求運動が広がりカダフィ大佐が戦闘で死亡、米特殊部隊がウサマ・ビンラディン容疑者を殺害、タイで大洪水が発生し日本企業が操業停止に追い込まれました。

国内では、菅首相が居座りの末に退陣し野田内閣が誕生、欧州危機の深刻化に伴い円が戦後最高値を更新し輸出産業に多大な影響が出るなど、政治と経済に大きな不安を募らせました。そして3.11の東日本大震災、想像を絶する惨事は、死者・行方不明者合わせて約2万人を越える未曾有の被害となりました。加えて東京電力福島第一原発事故の影響はとて深刻であります。戻れぬ家やふるさと、再開できない事業、農畜水産業の出荷停止も相次ぎ風評被害も拡大、いつ終息するのか予測もつかない状況に対し、政府には更なる危機感とこれまで以上の覚悟を持って対応していただきたいものです。

さて今年度も事業計画に基づき、4つの委員会と6つの地区会の活動を中心に進めてまいります。会員の皆さんが積極的に参加、協力することにより有効な情報を学び共有し、全県下にネットワークを形成することから生まれるメリットを、各企業で最大限に活かしていただきたいと思います。

震災から一年余り、身をもって災害対策に取り組んできた中で、新たに見えた具体案を今後を活かし、後世に伝えていくことこそが我々の使命である



と考えます。机上のシミュレーションではスムーズに流れるはずの体制が、残念ながら思うように機能しなかったのが現実です。「想定外」とか「経験したことのない」で済ませてはられない重要な課題の数々が目の前にあります。通信手段や連絡体制の確立、資機材や最低限欠かすことの出来ない生活物資の調達手段、BCPのあり方や防災体制の整備など、官民が連携をとり早急に対応しなければならない問題が山積しております。

また平成24年6月1日から茨城県で施行されます、建設工事入札・契約制度改正など、我々を取り巻く環境も速いスピードで大きく変化をしております。

当協議会は、そのような問題や環境の変化に対し、的確にそして柔軟に対応できる業界団体として、協会本部のご指導をいただきながら、皆さんと共に取り組んでいきたいと思っております。

本年度も会員並びに関係各位の皆様方の更なるご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

平成24年度 第20回定時総会を開催

総務委員会 田山 浩之

本協議会の平成24年度第20回定時総会が5月25日（金）に水戸市内のフェリヴェールサンシャインにおいて開催されました。

冒頭、大貫会長から「安心安全な国土づくりのために更なるリーダーシップを発揮し、官民が連携をとりながら震災で得た経験を生かし、活動していく」との挨拶があり、来賓の（社）茨城県建設業協会の尾曾副会長より「魅力ある建設業の活動を協会本部と一丸となり、地域社会に貢献できる未来協議会として活動を進めて欲しい」との祝辞をいただきました。その後、規約により大貫会長が議長に指名され、次の4議案を審議し、原案どおり可決しました。

第1号議案 平成23年度 事業報告の件

第2号議案 平成23年度 収支決算の件
監査報告

第3号議案 平成24年度 事業計画の件

第4号議案 平成24年度 収支決算の件

議事後、ご来賓の茨城県土木部宇野総括技監から、「震災で建設業が活躍したのを踏まえ、関係団体とのさらなる連携強化や情報共有化、資機材の調達体制の整備を進めていきたい」、さらには、「一般競争入札が1,000万円以上に拡大するに伴い、超簡易的な総合評価（特別簡易Ⅱ）を導入する」とのご挨拶をいただきました。

さらに、国土交通省関東地方整備局久保田常陸河川国道事務所長から、「建設業のイメージアップは成果があがらないと聞かすが、今回の震災で、地域貢献や地域の防災力に欠かせない存在である事が証明され、この点から国民の方々へPRしていき、それを支援していきたい」とのご挨拶をいただきました。

第二部では、京都大学の藤井聡教授を講師に招き、「公共事業が日本を救う」と題して記念講演が行われました。その中で、「自由主義経済を導入し規制緩和と競争力のみを推し進めてきた政府を痛烈に批判。



総会では24年度の事業計画などを承認しました



来賓から激励の挨拶を頂きました

今後起こりえる災害に備えるため、または、日本経済の浮揚対策のためにも、年間20兆円、今後10年間で200兆円の財政出動による徹底した建設投資を行い、国土強靱（きょうじん）化を進める必要がある」と述べられ、我々建設業界への強烈な応援者の言葉に一喜一憂する場面もありましたが、平成24年度のスタートを飾る素晴らしい記念講演を開催できました。



藤井先生

茨城県土木部との意見交換会を開催

総務委員会 委員長 吉田 長邦

平成23年8月2日（火）に、茨城県土木部と建設未来協議会の意見交換会を、茨城県土木部より鈴木守総括技監、宮本技監兼検査指導課長、打越首席検査監をはじめとして、監理課や検査指導課の方々をお迎えし、茨城県建設業協会本部ビル5階において開催いたしました。

日頃より、建設未来協議会の会員が感じていることについて、具体的な例を挙げながら、意見や要望をご提案いたしました。内容は以下の通りです。

1. 入札・契約について

- ・工事立替金制度について、監督員の方で理解不足の方がいらっしゃるの、その周知の徹底。
- ・一般競争入札時の配置予定技術者の複数申請を認めて頂きたい。
- ・最低入札価格制度が無く、低入札価格調査も厳正ではない市町村が未だに多いので、更なる指導をお願いしたい。また、根拠のない歩切に関しても同様の措置をお願いしたい。

- ・評価方式における地域貢献の加点を今まで以上に大きくして頂きたい。
2. 積算について
- ・小規模工事や交差点工事などの難易度の高い工事に関しての積算単価の割り増しをお願いしたい。
3. 施工について
- ・適切な工期、速やかな支障物件の移設と設計変更をお願いしたい。
 - ・設計図書が現地との照査で著しく違う場合は、三者会議等の審査会の開催をお願いしたい。
4. 検査について
- ・検査書類の提出に関して、担当検査監により指導がまちまちであるので、統一をお願いしたい。
 - ・創意工夫の加点の仕方がまちまちなので、統一をお願いしたい。
- 以上のような要望に対し、茨城県土木部の方々に



は、前向きに検討することを約束して頂き、有意義な意見交換会となりました。

茨城県土木部の幹部の方々との意見交換会は毎年定期的で開催しております。これからも、会員の皆様のご意見ご要望を茨城県土木部にお伝えし続け、お互いの信頼関係をさらに深くしていくべく、業界側も技術や品質の向上に努めていきたい、との思いを新たにいたしました。

関東地方整備局常陸河川国道事務所との意見交換会を開催

総務委員会 委員長 吉田 長邦

平成23年11月9日（水）、国土交通省常陸河川国道事務所会議室において、意見交換会を開催いたしました。今回で3回目の開催となるこの会には、常陸河川国道事務所より児玉好史事務所長、竹内実副所長（技術）、関一雄副所長（技術）、各担当課長の方々が、建設未来協議会からは大貫会長をはじめとする、役員の方々が参加いたしました。

冒頭のあいさつで、児玉事務所長より「3.11東日本大震災や台風15号の大きな出水に対する皆様の対応、ご協力に感謝しております。社会資本整備や管理を掌っている行政は、建設業界の皆様なくしては機能しません。震災や水害を経てますますその思いを強くしているところです。さらにお互いに良い仕事が出来ますよう忌憚のない意見交換をお願いします」とのご挨拶を賜りました。

意見交換会に先立ち、事務所側から

- ①入札契約・総合評価関係実施状況及び改善の取り組み
 - ②総合評価落札方式の活用、改善による品質確保に関する懇談会の検討方針（案）
 - ③競争参加資格確認書を作成する上での注意点
- についての情報提供を頂きました。また、協議会側からは、
- ①建設業や公共事業の必要性を積極的にアピールしていること
 - ②東日本大震災におけるBCPについてのアンケート集計結果
 - ③東日本大震災における建設企業の対応についての課題と改善策

についての説明をいたしました。

続いての意見交換会では、3.11の東日本大震災のような広域的災害に再度遭遇した場合を想定した内容で、大いに議論が白熱いたしました。内容は以下の通りです。



- ①燃料の調達には、各社が困難を極めたが、一部の業者は、日頃からの取引における信頼関係から、優先的に供給を受けることが出来たのも事実である。しかし、緊急時には、行政指導により、優先的に応急復旧工事用車両への給油を可能にして頂きたい。
- ②災害協定を国、県、市町村の三者と締結しているが、その優先順位は、一番最初に連絡を受けた発注者からになっていた。国、県、市町村の情報を一元化し、災害応急・復旧工事の要請を行える「広域的ネットワークの構築」が必要ではないか。
- ③通信に関して、非常時の連絡手段が極めて脆弱であり、特に民から官への連絡が取れず一方通行であり、何らかの対策をお願いしたい。
- ④応急工事でも通常工事と同様な工事書類の提出要求を受けた。書類の簡素化や、出張所間での工事書類の揃えるべき内容も異なるので、共通化をお願いしたい。

これまでの諸問題や震災応急工事への意見や提案を上記の内容で行いました。これらの意見・提案は、国土交通省の上部機関等に伝えて頂けるとの確約を頂き、今後とも対等なパートナーとして、さらに相互のコミュニケーション向上を図ることを確認して意見交換会を終了致しました。

現場見学会・現場実習を開催

人材育成委員会 委員長 篠崎 尚史

平成23年度の現場見学会は高校4校・専門学校2校・大学1校の参加で実施いたしました。

現役で建設を学ぶ生徒であり、将来の建設業界を担う生徒達に、茨城県が行っている大規模プロジェクトの現場を肌で感じてもらいました。

実際の現場にたった生徒達は、一人一人熱心に見学し、現場の責任者に事細かく質問し、自分の将来に役に立つよう見学していました。また普段机上だけで勉強している技術や言葉が実際に使われていることに率直に感激していたようです。

リーマンショックや円高等の景気後退による雇用不安や先行き不透明な社会事情などたくさんの不安要素が取り巻き、雇用が少ない時代ですが、見学している現場には数多くの方が協力し合いながら働き、知恵を出し合ってひとつの物を作り上げる姿や建築物を眩しそうに見上げる生徒達の後姿に、少しか夢と自信が感じられたように思います。

現場実習は高校4校・専門学校3校の参加で行われました。実習日数は3日間という短いものでしたが、実際に企業に向いて現実の社会を体験してもらいました。実習は各企業の指導者の方に計画していただき、実際の現場作業実習や材料ブランドなどの見学。社内で設計CADの実習など、多岐にわたった様々な内容を生徒達に体験してもらいました。実習初日は生徒達と各会社の引率者で、現場についての話し合いの時間を作り、お互いにコミュニケーションを図り、現場実習に出発していきました。2日目になると、指導者との信頼関係が出来てきて積極的に取り組む姿勢がみられるようになりました。



3日間で習得できる技術は少ないと思いますが、この期間に肌で感じた現場の緊張した雰囲気は、学校では決して得ることの出来ないものです。数年後には「社会」と言う厳しい現実の中に歩き出さなくてはならない生徒達…。3日間でありましたが、彼らの将来における方向性を感じ取ってもらえたのではないかと思います。

最後に、この企画にご協力いただきました茨城県土木部検査指導課の皆様および、実習生・見学生を快く受け入れていただきました受入企業の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後ご支援ご協力をお願い申し上げます。

子供たちに建設業への夢と希望を！ 「建設フェスタ2011」開催



地域貢献活動委員会 委員長 山崎 剛



CCI茨城の事業のひとつである「建設フェスタ」は建設未来協議会が総力を挙げて取り組んでおり、地域貢献活動委員会はその実行部隊として活動しています。

18回目となる「建設フェスタ2011」は昨年10月23日（日）ひたちなか市内にて開催いたしました。当日はあいにくの天候で朝まで小雨が続きましたが、開会式前には雨も上がり、日中は陽がさすまでにお天気も回復。お客様の出足も朝のうちは若干少ない感じを受けましたが、お天気の回復に合わせてお昼前には例年以上の人出となりました。ちなみに今年の来場者数は13,000人（昨年比+1,000人）でした。

私たちの生活に大きく影響を与えた東日本大震災。直後のインフラ復旧や避難所の応援、その後の復旧工事に取り組む建設業界の活動を映像で紹介するコーナーには多くの方に足を止めて頂きました。例年人気のミニ上棟式やクイズラリーの他、大洗高校のマーチングバンド演奏には、その正確無比な演奏と動きに多くのお客様が釘付けとなりました。また、今年は、ボトルキャップアートや建設風景絵画コンクール表彰式など、新しい催事も行い、子供たちを対象にしたもの作り体験には、定員を超えての申し込みがあるほどの盛況ぶりでした。さらにチャリティーオークションで

は、「骨髄バンクを支援するいばらきの会」様より頂いた読売巨人軍越智選手のサイン入りグッズをはじめ、各協賛団体様より多種多様な商品を提供して頂いたおかげで、68,800円もの収益がありました。後日「骨髄バンクを支援するいばらきの会」様と「茨城新聞文化福祉事業団」様へ慈善金としてお届けさせていただきました。

又、今年も日本赤十字社と骨髄バンクを支援するいばらきの会に協力を頂き「愛の献血」と「骨髄ドナー登録会」を会場内で実施し、それぞれ67名と23名の協力を頂くことができました。ご協力頂いた皆様に改めて御礼申し上げます。

3月の震災。建設フェスタは開催できるのかといった不安もありましたが「こんな時だからこそ建設業のPRが大切」との思いで準備を進めてきました。子供たちに建設業に対する夢と希望を、そして一般県民の方々にも建設業の本当の姿を正しく理解していただけるように、これからも「建設フェスタ」の開催を継続していけるように頑張っていきたいと思います。

「建設フェスタ」開催のために協力頂いた各機関、団体の皆様、そして何より毎年、会場に足を運んで下さるお客様に感謝いたします。ありがとうございました。



委員会紹介

総務委員会

担当副会長 梅原基弘
委員長 吉田長邦

総務委員会は、5月25日に開催いたしました定時総会の企画・運営をはじめ、茨城県土木部や国道交通省との意見交換会などの研修会を開催しております。季刊誌NEXTの発行や会員名簿の作成および11月に開催いたします親睦行事など、会員皆様への連絡調整や情報提供に努めております。担当副会長の梅原副会長を中心としたメンバーの総勢16名が、毎月1,2回の頻度で大変熱心に活動しております。会員の皆様の絶大なるご支援ご協力をお願いいたします。

<今年度の主な事業>

1. 定時総会、役員会の企画・運営・開催
2. 建設未来協議会の予算・決算に関する業務
3. 季刊誌NEXTの企画・編集・発行
4. 会員名簿の作成
5. 各発注機関との意見交換会の企画・運営・開催
6. 会員親睦行事の企画・運営・開催
7. 各委員会、地区会、会員への連絡調整、情報提供



茨城県土木部との意見交換会 ▲

人材育成委員会

担当副会長 菊地和幸
委員長 篠崎尚史

人材育成委員会は次世代を担う高校生・専門学校生などを対象とし、建設事業の正しい理解とその魅力を伝えるべく活動しております。主な事業は、会員企業様に多大な協力を頂き実施している「現場実習」と県内の大規模プロジェクトを見学する「現場見学会」です。

本年度も数多くの学校と連携をとりながら委員全員で力をあわせて活動してまいります。

<今年度の主な事業>

- ・高校生・専門学校生を対象とした現場実習の実施
- ・高校生・専門学校生・大学生を対象とした現場見学会の実施
- ・高校・専門学校教師との意見交換



現場見学会 ▶

地域貢献活動委員会

担当副会長 木村 晃
委員長 山崎 剛

地域貢献活動委員会の主な担当事業は「建設フェスタ」の企画・運営です。

今年で19回目となる「建設フェスタ」は10月下旬に開催する予定です。

建設業の楽しさ、大切さについて子供たちを中心にPRするイベントですが、我々建設業関係者の姿を広報し、社会資本整備の大切さを改めて伝えていきたいと考えています。

「建設フェスタ」が楽しく盛大なイベントになるように、委員一丸となってしっかり準備したいと思えます。

<今年度の主な事業>

1. 建設フェスタ2012の企画開催
2. 献血、骨髄バンクドナー登録会の開催
3. パンフレットの作成等の広報活動

「建設フェスタ2011」を支えたスタッフ ▶



建設システム委員会

担当副会長 端 利一
委員長 柴 直樹

建設システム委員会の事業内容は、講習会・勉強会の企画と未来協議会ホームページの企画・編集です。地震・竜巻など数年で様々な自然災害が起こっていますので、緊急時における対策として特に通信手段の調査研究をして、講習会または勉強会を企画したいと思います。また、ホームページには各委員会、各地区会の活動をよりタイムリーに掲載しようと思います。特に建設フェスタの様子はたくさんの写真をアップしていますので、ぜひ、建設未来協議会ホームページ www.mirai-kyo.com をご覧になってください。

<今年度の主な事業>

1. 経営力強化のための講習会の開催
2. ITを活用した広報活動の実施・研究
3. 未来の建設業のあり方についての調査研究

ホームページ検索 ▶



中学生ウッディーハウス建設体験学習 ～筑波東中で開催～

県南地区会幹事 高田 稔美



平成23年は、つくば市及びつくば市立筑波東中学校のご協力を頂き11月1日、18日の2日間に渡り1年生87名を対象に「CCI茨城」中学生建設体験学習を開催しました。初日は、生徒達に、鉄筋切断・鉄筋加工そして結束の作業や生コンを一輪車で運搬するという、難しい作業にも積極的に取り組んで頂きました。重機体験では初めて操縦するバックホウに目を輝かせ、歓声を上げていました。2日目は大工工事と測量体験をしてもらい、グループリーダーのもと、板材のカンナ掛けやかけやを使って板材を落とし込むなど各自が役割を分担し非常に楽しそうに取り組んでいました。また、測量体験ではレベルと光波を使い高低差と距離を測定しました。

そして11月28日に開催した「引渡式」には、つくば市・岡田副市長、柿沼教育長、飯岡議長、茨城県土木部 検査指導課・肥高技術総括に来賓として列席を賜り祝辞を頂きました。生徒代表からは「もの作りの楽しさや仕事の厳しさを感じる事が出来、有意義な体験をすることが出来ました。」との言葉をいただきました。

ウッディーハウスの名称は生徒さん達の公募により「イーストハウス」と命名され、今後、



倉庫として未永く使って頂けたらと思います。

2日間という短い時間でしたが仕事の楽しさ、厳しさ、人の和など多くのことを学んで頂き、生徒さん達からは、「とても楽しかった」「将来、大工さんになりたい」「建設業への親近感が高まった」との声を頂き、今回の体験が将来の職業選択への一助になれば私たちも関わった人間として嬉しく思います。

結びに今回の事業にご支援、ご協力、ご指導を賜りました皆様に心からの御礼を申し上げます。

高萩・太田地区23年度活動報告 高萩・太田地区 幹事 小林 信昭

平成23年8月25日(木)太田支部会館にて、茨城県常陸太田工事事務所との講習会を実施しました。茨城県常陸太田工事事務所からは軽部宏所長はじめ幹部の方々にご出席いただき、建設未来協議会高萩太田地区からは、18名が参加しました。

軽部所長からは、「地域に信用、信頼される企業になってほしい」というお話を頂きました。研修会では、鈴木俊二次長兼道路整備課長から管内の事業概要について、中島登志男道路管理課長からは災害復旧事業等にかかる入

札手続きについてのご講演をいただきました。意見交換会では、積算、設計内容変更、総合評価入札等に関して、建設的な話をすることができました。

この講習会を通じて、発注者から信頼される、しっかりとしたパートナーとなれるよう受注者として改めて感じました。

また、地域貢献活動として(社)茨城県建設業協会太田支部(瀬谷支部長)と合同で、国道349号の除草作業を、7月15日(金)、11月2日(水)の2回、実施しました。



太田工事事務所との意見交換会



除草ボランティア活動

●平成23年度入会者

地区	氏名	商号	郵便番号	住所	電話番号	FAX番号
水戸	関根 貴雄	(株)関根工務店	310-0033	水戸市常磐町 2-3-17	029-221-4789	029-231-6198
水戸	仙波 秀教	仙波建設(株)	309-1611	笠間市笠間 136	0296-72-0321	0296-72-1959
鹿行	藤枝 賢一	藤枝建設(株)	311-2116	鉾田市札 670-4	0291-39-3270	0291-39-6840
鹿行	飯塚 揚	(株)飯塚工務店	311-1515	鉾田市畑田 2203-9	0291-33-6283	0291-32-4614
鹿行	小川 光将	小川建設(株)	314-0254	神栖市太田 4272	0479-46-0161	0479-96-1439
県南	栗山 秀樹	栗山工業(株)	300-0427	稲敷郡美浦村布佐 1049	029-885-0477	029-885-0835
県西	野口 貴生	野口機設工業(株)	300-3561	結城郡八千代町平塚 3477-6	0296-48-2251	0296-48-2761

●平成24年度入会者

地区	氏名	商号	郵便番号	住所	電話番号	FAX番号
大宮・大子	根本 貴史	ネモト建設工業(株)	319-1117	東海村東海 3-8-48	029-282-3208	029-287-0430
県南	櫻井 郭実	(有)櫻文工業	301-0032	龍ヶ崎市佐貫 3-8-4	0297-66-4145	0297-66-4140
県南	飯塚 亮平	飯塚建設(株)	300-0612	稲敷市市崎 1336-2	0299-79-2712	0299-79-1863
県西	小川 敦史	小川建設工業(株)	306-0210	古河市前林 1998	0280-92-2811	0280-92-3637

新規入会者紹介

- ・藤枝建設(株) 藤枝 賢一
趣味：ゴルフ・旅行
気になること：CPDSのこと。今後の建設業の動向
- ・栗山工業(株) 栗山 秀樹
趣味：音楽鑑賞、読書
- ・飯塚建設(株) 飯塚 亮平
趣味：ドライブ・旅行
気になること：少しでも時間があると、ふらっと車で旅行に行きたくなります。最近では宮古市など東北の被災地に行き、自然の驚異の前では、なすすべがなかったことを痛感しました。同時にその脅威に対して私たちはどのように準備しておけば今後被害を最小限に抑えることができるのか。いざ災害が発生してもどのように対応すれば最善なのか!?等。より防災意識を強めていかなければならないと感じました。
- ・仙波建設(株) 仙波 秀教
趣味：スキー・スノーボード・金環日食
- ・ネモト建設工業(株) 根本 貴史
趣味：アウトドア・車・バイク・水上バイク

- ・小川建設工業(株) 小川 敦史
趣味：ツーリング
メッセージ：公共工事が少ない今こそ各業者が力を合わせて前進していかなければならないと思う。
- ・(有)櫻文工業 櫻井 郭実
趣味：川釣り
気になること：景気の動向
メッセージ：今回、建設未来協議会に入会させて頂きまして、まだまだ若いので皆様の足を引っ張らないよう頑張ります。宜しくお願い致します。
- ・(株)関根工務店 関根 貴雄
趣味：スポーツ観戦(特に野球とサッカー、ゴルフ)
ゴルフ(下手ではありますが、プレーを楽しむことも好きです)
- ・小川建設(株) 小川 光将
趣味：スポーツ全般・釣り等
メッセージ：未来協議会を通じて、他社とのコミュニケーションを図りたいと思います。
- ・(株)飯塚工務店 飯塚 揚
趣味：オートバイ(バイク)
気になること：事業継承・経営理念

「エール」 - 卒業にあたって -

鶴田組 鶴田 哲男

早いもので、平成7年に入会して17年が過ぎました。卒業にあたり、今までお世話になった関係者の方々に感謝の気持ちと、一抹の寂しさを感じています。

入会当初、この業界は最高潮の頃、すぐに行財政改革が始まり状況は一変、変化の速さに私自身驚かされました。その後も公共事業費は減少をつづけ、我々の経営環境は厳しくなるばかり。

その中で自分の支えになったのが、県内各地に知り合えた先輩や仲間達です。未来協の活動を通して、私のほうが、皆さんから知恵や勇気を貰った気がします。会社は違って、背負っている悩みは同じ、相談できる仲間がいること

は心強いこと。未来協の活動に参加することは、大きな財産になると思います。

昨年、まさかの東日本大震災が起きました。震災当初、日本人の見せた秩序正しさ、高速道路復旧の速さなど、世界の人々は、驚きと尊敬を持って見ていたはず。今こそ日本は、長い停滞期を脱し復興する為に行動する時。でも現実…。今こそ、新しい力や知恵が求められています。

未来協のメンバーには、その名の通り未来を切り開く者として立向かってください。みなさまのご活躍を期待しています。

がんばろう日本、がんばっぺ茨城

そして「**がんばれ未来協**」

● 平成23年度卒業生

地 区	氏 名	商 号
大宮・大子	鶴田 哲男	(株)鶴田組
高萩・太田	石井 嘉行	(有)石井建設
高萩・太田	宇野 泉	会沢建設(株)
高萩・太田	根本 勉	大木建設(株)

編 集 後 記

第20回定時総会における藤井聡氏の記念講演「公共事業が日本を救う」に感銘を受け、藤井氏の著書を購入するため書店へ走りました。講演タイトルと同名の書籍を購読しましたが、その中で公共事業を「悪」と見なす言説やデータは、十分な慎重さもないままに、ほとんどフリーパスでマスコミや書籍で紹介される。そして、それらが紹介されればされるほど、公共事業を悪と見なす「風潮」が強化される。そうなるとますます、公共事業を悪と見なす言説やデータを公言しやすくなる。一方で、そういう「風潮」に反対するような言論はますます発言しづらくなっていく。その結果、公共事業を悪と見なす「風潮」がますます強化されていく。

(中略)

公共事業は不要でも何でもないのである。それは必要とされているばかりか、それこそが、日本を様々な危機から救い出すために「不可欠」なものですらあるのである。

とありました。

東日本大震災後は世間の見方も変わりつつあると思います。災害復旧の様子がメディアで流れるたびに、建設業者が奮闘している姿が捉えられ、防災観点からの公共事業の必要性が世間に浸透しているのではないのでしょうか。

先日、とある政党のマニフェストでは、「国土強靱化基本法」を制定し、10年間でインフラ整備に200兆円規模の集中投資を行うというニュースがありました。これも藤井氏の影響によるものと考えられます。それだけ、日本のインフラ整備は遅れていると伺えます。

藤井氏は先日、あるTV番組に出演されましたが、その中でも必死に公共事業の必要性・緊急性をアピールしていた姿は興奮しました。1時間の放送枠では全然足りません。もっとより多くのメディアで活躍され、公共事業の必要性をアピールして頂きたいと思います。今後は藤井氏の動向に注目です。

(総務委員会 長山 朋之)